

【研究論文】

子どもの遊びと環境の公園研究（1）

—観察調査より幼児と環境—

小関 慶太

八洲学園大学 生涯学習学部 専任講師

1. はじめに

本研究は公益財団法人大林財団（2019年度）研究助成及び個人研究費における都市公園観察調査を経て、子どもの遊びと環境の観点より、公園における子どもの遊びについて検討を行ったものである。

本研究調査では、実地及び実態調査として、約100カ所の都市公園（千葉県内及び神奈川県内）、任意団体やNPO団体によるプレイパーク（冒険遊び場）が開催されているところ（千葉県内、神奈川県内、静岡県内）を調査の対象とした。都市公園の分類は、住区基幹公園、都市基幹公園、特殊公園、大規模公園、国営公園、立体都市公園など¹から構成される。

本稿では、実地調査より子どもの公園における遊びの内、遊具を題材に子どもの遊びについて考えてみたい。

2. 子どもの遊ぶ環境

保育の5領域（環境、言語、健康、表現、人間関係）がある。これらは相互に関わることで子どもの感性（五感）を高める。感性教育は情操教育に繋がる。環境領域から遊びを考えると、保育者自身が心豊かな感性を保ち、自然とその変化のすばらしさに共感する幼児に対し、ささやかなことに対しての共鳴していく²必要がある。

（1）子どもの遊ぶ環境

子どもの遊びには好奇心を喚ぶ「おもしろそう」「楽しそう」だから「チャレンジしてみよう」に変わる心の動きが前提にある。遊びは、遊びを通して子どもたちが学んでいく（＝「遊育」）。また遊びで失敗をしてしまうことはたくさんあるが、この失敗から学ぶこともたくさんある³。遊びを通して学ぶコミュニケーション、チャレンジ精神としての勇

¹ 早川礎子・小関慶太・磯崎えり奈「都市公園とこどもの遊びの予備的研究-冒険遊び場を題材に」『小田原短期大学紀要（51）』（小田原短期大学、2021）101-110頁

² 文部科学省「幼稚園教育要領解説」（2018）199頁以下

³ 大村璋子編著『遊びの力』（萌文社、2009）参照

気、危機回避力などを身につけ自立した学びを手に入れることが出来る⁴。

子どもの権利条約 31 条（1994 年批准）には、年齢に応じた（適した）遊びやレクリエーションが子どもの最善の利益になることが規定されている。

（2）変化する社会環境

子どもの遊び場を代表するマンガとして「ドラえもん」がある。ドラえもんの登場人物であるのび太君やしずかちゃんは、空き地で集まって遊んでいる。スネ夫がラジコンカーを持参し、ジャイアンに取り上げられ、壊されて返され泣いている。またジャイアンのリサイクルを近所の子どもたちを空き地に集め、土管の上をステージに見立てて行われている⁵。

1960 年頃までは、空き地に雑然と廃材や土管が置かれていた。1970 年頃から遊具に変わった。2000 年以降は、空き地が少なくなり子どもたちは駐車場などで遊ぶようになった⁶。近年、街区公園では、公園内の自転車の乗り入れ禁止、ボール遊びの禁止、犬の散歩が禁止と様々な制約や子どもの声の騒音の問題もあるといわれている。

3. 公園の様子

観察調査を行った一部の公園を対象に検討を行う。

（1）実地調査⁷

都市公園における子どもの遊ぶ環境は、城山公園内児童遊園（館山市）や登坂公園（市原市）では、ターザンロープが設置されており誰もが自由に遊ぶことが出来る。また清水公園（野田市）、袖ヶ浦公園（袖ヶ浦市）においても本格的なアスレチックをはじめとする様々な遊びを体験することが出来る。フィールドアスレチック横浜つくし野コース（横浜市）では、様々なアスレチックが設置されているが有料である。

子どもの創造力によって多様な遊びができる遊具として幕張西一丁目公園（千葉市）、堂坂公園（市原市）、酒々井総合運動公園（酒々井町）、富里中央公園（富里市）などが挙げられる。また小規模～中規模のアスレチックは、千葉公園（千葉市）、県立青葉の森公園（千葉市）、城山公園児童遊園（館山市）、物井さとくらし公園（四街道市）、公津の杜公園（成田市）、上座総合公園（佐倉市）が挙げられる。

大規模公園で大きな池や遊具広場、お花見広場、運動広場を併設し、老若男女がそれぞれの目的を達成できるオープンスペースとして、大百池公園（千葉市）、泉谷公園（千葉市）、県立館山運動公園（館山市）、昭和の森公園（千葉市）、千葉公園（千葉市）、創造の森（千葉市）、鴨池公園・まんまる広場（横浜市）がある。

⁴ ピーター・グレイ著 吉田新一郎訳『遊びが学びに欠かせないわけ』（築地書館、2018）参照

⁵ 前掲早川・小関他（2021）参照

⁶ 奥田援史・炭谷将史『遊びの復権』（2018、おうみ学術出版会）53 頁以下参照

⁷ 実地調査研究は、早朝行ったことで人物などが映らないように配慮をした。一部映り込んでいる分（撮影者：早川礎子）に関しては、個人が特定できないように加工を施した。

ウォーキングコースが設置されている日在浦海浜公園広場（いすみ市）やウォーキングコースになる遊歩道で公園同士が繋がれている泉谷公園・有吉公園・大百池公園等（千葉市）、鴨池公園・茅ヶ崎公園、徳生公園等（横浜市）が挙げられる。これらの公園の共通点は、プレイパークが開催されている公園⁸でもある。

千葉公園（千葉市）、県立青葉の森公園（千葉市）、城山公園児童遊園（館山市）では、たくさん子どもたちが、保護者や友達・仲間とともに身体を動かしながら楽しんでいる様子を見受けられた。また鴨川市ふるさと記念公園子供広場では、保護者が遊具を消毒して子どもに遊ばせている様子を伺えられた。

(2) 遊具

「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂2版）」（国土交通省）に基づき「遊具の安全に関する基準」（一般社団法人 日本公園施設業協会）が策定され、安全領域及び開口寸法の観点から設置できる遊具を示した。この結果、箱型ブランコ、遊動木等は条件付きで廃止となった⁹。また高齢者向けの健康遊具の設置¹⁰も行われている。

【公園の様子】



物井さとくらし公園



物井さとくらし公園



酒々井
総合運動公園



公津の杜公園

⁸ すべての公園とは限らず

⁹ 一般社団法人 日本公園施設業協会, <https://www.jpfa.or.jp/activity/kijyun/>, 最終閲覧日：2020年8月10日

¹⁰ 読売新聞オンライン（2017.7.6）「公園も大声禁止、遊び場を追われる子どもたち」, <https://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/20170706-0YT8T50017/>, 最終閲覧日：2020年5月6日



公津の杜公園



上座総合公園



富里中央公園



幕張西一丁目公園



幕張西一丁目公園

公園に設置されているアスレチックは、一概にこうであるというものではなく、公園によって様々である。公津の杜公園（成田市）や県立青葉の森公園（千葉市）と、物井さとくらし公園（四街道市）や上座総合公園（佐倉市）を比較すると規模が異なっている点以外でも、子どもたちの遊び方にも変化が見受けられた。また大型滑り台が設置されているおゆみ野南公園（千葉市）、物井さとくらし公園（四街道市）、打瀬第5公園（千葉市）、流山総合運動公園（流山市）が挙げられるが、子どもたちは安全性を担保しながら利用をしているように見受けられた。

堂坂公園（市原市）にある使用方法はわからない変わった遊具としてフラワーガーデンがある。一説には、アーチのように植えられた木が春になると満開な花を見させてくれる憩いのスポットと説明¹¹されている。

幕張西一丁目公園（千葉市）にある、木のオブジェやカバのおもちゃは地面に這って設置されている点より、安全面では守られた遊具¹²であるように考えられる。使用方法に関しては、子どもたちの創造力に期待したい。似たような遊具でバネがついているものとしては、鴨川市ふるさと記念公園（鴨川市）の子供広場には、鴨川らしくクジラのおもちゃが設置されていた。

滑り台等は、木製、鉄製、強化プラスチック製がある。木製¹³では、おゆみ野そばら公園（千葉市）、物井さとくらし公園（四街道市）に、強化プラスチック製¹⁴は、鴨川ふるさと記念公園（鴨川市）、酒々井総合運動公園（酒々井町）にあった。鉄製で単一的な滑り台は、一宮舞台公園（一宮市）にあり、複合的な滑り台は、堂坂公園（市原市）、港南台中央公園（横浜市）が挙げられる。一宮舞台公園（一宮町）のような単一的な遊具は、虹ヶ丘南公園（川崎市麻生区）や千葉市中央区の多くの公園でも見られた。

また変わった遊具として、鴨川ふるさと記念公園（鴨川市）にまるで絵本のような遊具が設置されていた。この遊具は、子どもの五感（感性）を高めることが出来るのではないかと分析される。

¹¹ 使用方法は、近隣に住む教え子らより情報を得た

¹² バネをなくすことで、バネに足や手などを挟む危険が軽減する

¹³ 滑り台の滑る部分は、鉄製か強化プラスチックである

¹⁴ 一部、鉄の骨組みあり



鴨川市ふるさと記念公園
子供広場

(3) 学習目的の公園

交通公園は、公園内に道路、信号、横断歩道、道路標識、踏切などを示すことで交通のルールやマナーを子どもたちが学ぶ場¹⁵である。日本社会のモータリゼーション化に伴い1960～70年代の交通事故件数は増加傾向にあった。その後は、減少傾向を辿っていたが1980年代中期より増加傾向に転じている。その後は、減少傾向にある。その背景として子どもの遊び場がリアル空間からバーチャル空間への移行、空き地がなくなり屋外で遊ぶことが出来なくなった¹⁶などの背景があると解される。

交通公園はそれぞれの地域に点在して存在しているが、現在も整備されている公園と整備されずに廃止された公園がある。

花見川緑地交通公園（千葉市）では、「千葉市自転車を活用したまちづくり条例」（2017.7.1施行）に伴うヘルメットの貸し出しや、昨今の交通事情に応じた自転車レーン

¹⁵ 金子淳「交通戦争の残影 交通公園の誕生と普及をめぐる」『静岡大学生涯学習教育研究（10）』（2008）参照

¹⁶ 前掲早川・小関他（2021）101頁以下参照

（車道混在型）を、園内道路にも設置をしている¹⁷。上座総合公園（佐倉市・松戸市）、宮田公園（市原市）、萩原公園（茂原市）、木更津公園（木更津市）等は、整備されているのに対して都町公園（千葉市）は、整備が終了している。萩原公園は、踏切も設置されていた。また宮田公園と萩原公園の共通点として飛行機型のジャングルジムが設置されている。

また航空公園の所沢航空公園（所沢市）は、所沢飛行場の跡地に整備された。その他、さくらの山（成田市）、ひこうきの丘（芝山町）、グリーンポート エコ・アグリパーク（芝山町）などがある。ここでは、成田空港の離着陸の様子を眺めることが出来る。また浮島町公園（川崎市）や羽田コンベンションシティ屋上（大田区）からは東京国際空港（羽田空港）の離着陸の様子を眺めることが出来る。

4. 遊具と遊び（幼児と環境）への一考察

遊具において滑り台の枠から（手すりの低さ、地面の硬さ等）子どもが飛び出してしまうのではないかと思うぐらいの高さも場合もあり、客観的な観点よりヒヤリ・ハット要因と解されるものもあるが、利用する子どもたちの使い方や保護者や地域の住民の見守りによって問題点が解消されているように伺えられた。

またオープンスペースとしての公園において、それぞれの場所が様々な工夫がなされて、老若男女の多様な方々がそれぞれの目的や楽しみ方で活用できるように構成されているように感じた。例えば、堂坂公園（市原市）は、活発に遊びたい子ども向けにターザンロープ、お花見をしたい方向けのフラワーガーデン、乳幼児も遊べる複合型遊具が設置されている。大規模公園では千葉公園（千葉市）、県立青葉の森公園（千葉市）では、敷地が広いこともあり、それぞれのコーナーで目的にあった楽しみを得ることが出来る。

以上のように、観察調査を経て子どもの遊ぶ環境や遊具には、地域性や需要と供給の関係があるのではないか。また子どもたちは遊びを通しての学び、遊具は保育における5領域より感性を高める実践的に学ぶ場にもなる。

今後の課題として、犯罪機会論より遊びの環境における①遊具の安全性（集団及び個人の使用方法、遊具の特性のリスクファクター）、②犯罪予防の対策として公園の特性を超え行き過ぎた不安¹⁸への対策について、また子どもたちの好奇心、行動力、主体性、人間関係（異なる年齢層）、体力、動きなどの観点も併せて検討し、遊びの環境である公園について更なる検討が必要であると考えます。

¹⁷ 千葉市花見川緑地交通公園

<https://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/chiikianzen/koutuukouenn.html>（最終閲覧日：2021年2月10日）

¹⁸ 公園のベンチに座っただけで通報されたおじさん 不審者扱いの理由は「普段は見ない人。スマホを使っているから盗撮かも」https://www.excite.co.jp/news/article/Careerconnection_11337/（最終閲覧日：2021.2.20）

付記：本研究は、公益財団法人大林財団 2019 年度研究助成「都市公園におけるプレイパークの横断的調査研究—利用者と運営者の視点より」研究成果の一部である。本稿執筆にあたり、公園調査資料（一部）は早川礎子氏（小田原短期大学）の協力を得た。

小関慶太『研究報告書 都市公園におけるプレイパークの横断的調査研究—利用者と運営者の視点より』は、2021 年 9 月発刊。本書で個々の公園の観察調査で得た特性を掲載している。また質問紙調査の横断（比較）研究結果は、『八洲論叢（1）』（八洲学園大学）2021 年 9 月公刊予定に投稿・掲載予定である。

脚注に示していない参考文献

- ・加賀谷真由美『子どもと作る遊び場とまち』（萌文社、2001）
- ・阿部学『子どもの「遊びこむ」姿を求めて 保育実践を支えるリアルティとファンタジーの多層構造』（白桃書房、2017）
- ・小野佐和子『こんな公園がほしい～住民がつくる公共空間～』（築地書館、2001）
- ・平塚勇司『都市公園のトリセツ』（学芸出版社、2020）
- ・増田修治『遊びにつなぐ！場面から読み取る子どもの発達』（中央法規、2018）
- ・増山均・齋藤史夫編著『奪わないで！子どもの時代』（新日本出版社、2012）